

子犬・子猫に行くべき問題行動の予防やしつけの工夫

開催日時 令和5年3月12日(日) 12時45分～14時45分
開催場所 TKPガーデンシティ千葉 3階『シンフォニア』
〒260-0025 千葉市中央区問屋町1-45 千葉ポートスクエア内



Zoom ウェビナー URL PCの場合は、県獣医師会ホームページにもURLを記載しますので、クリックして、接続してください。QRコード

参加費 **無料** 接続定員500名まで スマホの場合は、QRコードから、接続してください。

<https://us06web.zoom.us/j/84402506946?pwd=RTNZckZLOctDamw5K3FPWWIJdGplZz09>

ウェビナーID:844 0250 6946 パスコード:673461 (15分前接続開始)

麻布大学 獣医学部 動物応用科学科
伴侶動物学研究室 講師

久世 明香 Sayaka Kuze

プロフィール

2005年 東京大学農学部獣医学専修卒業
2008～2014年 東京大学 特任助教
2010年 東京大学大学院 博士号(獣医学)取得
2013年 獣医行動診療科認定医取得
2014～2017年 ACプラザ荻谷動物病院 勤務医
2014～2017年 東京大学附属動物医療センター特任助教
2018年4月～ 麻布大学 講師
現在に至る



イヌやネコは伴侶動物として私たちにとってとても身近な存在であり、国内の飼育数はこどもの人口を上回っている。単に飼育しているのではなく、家族の一員としてともに暮らし、喜びや癒しを与えてくれる存在であると実感している人も数多くいるだろう。このようなイヌやネコの飼育による ヒトへの良い影響については、経験的なものだけでなく、学術的な報告も増えている。その一方で、イヌやネコの行動に困り、飼育が困難になることもあり、このような問題行動はヒトと動物の双方の福祉を損なう可能性がある。

問題行動の予防には、イヌやネコという動物に対する理解と幼少期の工夫が重要となる。幼少期には、体が成長し、運動能力が発達するとともに、様々なことを学習し、心の成長も見られる。イヌとして、あるいはネコとして、正常に心身を発達させるだけでなく、人間社会で過ごしやすくなるために積極的に教えていくべきこともある。

本講演では、発達過程で行うべき予防やしつけについて、行動学的な影響を中心に紹介していく。

主催：公益社団法人 千葉県獣医師会

後援：千葉県 / 千葉市 / 全国農業協同組合連合会千葉県本部 / 千葉県農業共済組合 / JA全農 家畜衛生研究所 / 株式会社 科学飼料研究所 / 千葉県愛玩動物協会 / 公益社団法人 日本動物病院協会 / 公益社団法人 千葉県医師会 / 公益財団法人 千葉県動物保護管理協会 / 専門学校ちば愛犬動物フラワー学園 / 株式会社 千葉日報社 / 千葉テレビ放送 株式会社

協賛：公益社団法人 千葉県畜産協会 / 千葉県動物薬品器材協会